誹諧

真澄形代記

あまの衣

序文

特別
へ5
6056
1

京都帝国大学図書之印

琳清おくり一衣

松永貞徳永代記序文

夫琳清の連歌ハ和哥の代一統より風俗別者て真
連歌より唐の清輝乱国の辞と和哥世語小説メ
琳清の連歌と成事先テ琳書毎月祥ハ和朝琳
清の元祖ハ松永貞徳と申候書後三帝當書代迹
く板行せる旨延ハ吉冬帝朝二重と云琳書一
部宮巻堀江林鴻と云琳士帝中古今代点者不識
自業代発句を清愛ハく加入ちける中ハ貞徳前
と素房と推量ハ始出一秘密出来代奥伝若士
殊ハ稽ハ書まく記之と清ぶ添中して琳点者十

柳園藏

56-4143

三人ハ奥書ニ世ニ板行ヲ弟ニ之ニ書ハ京洛
西ノ名ヲ名ハ名ハ洛ヘ俳士不識自筆ニ発句ヲ加
入一刻十三人ニ一統小貴義ヲ跋ヲ書ヲ書ハ是
世出家四男徳授の書ヲ上林鴻和ニ新俳式ヲ立
貞徳ニ名ヲ加リテ御傘遠宵ヲ句法ヲ出セリ此
書世間ニ流布セハ貞徳四俳の一道障ル成間敷
ムテ是ヲ仕絶板ヲ世ヲ思ひ人方へつらし
ヲ尚書物の肯題家小書付作る

今度俳諧京羽二重一覧ヲ大抵ヲ俳諧ヲ始リ
林鴻ヲ千機ヲ工ヲ織出ヲ結ヘ施行仕ヘ都
鄙遠国ヲ新ヲ小ヲ生徒多ヲ食ヲ養ヲ撰ヲ事ヲ
新式林鴻雅ヲ形宅ヘ出ヲ家ヲ寄ヲ門人ヲ細ヲ
ヲ心ヲ是ヲ遠ヲ所ヲ先尚書三冊目貞徳道統ヲ
俳諧ヲ賊物ヲ偽ヲ式并発句秘密切連方一ヲ
和ヲ偽ヲ出家ヲ大事書ヲ板行ヲ事ヲ法ヲ
業遠ひとヲ林鴻一人ヲ作ヲ又何人ヲ法合
ヲ不知ヲ作ヲ我ヲ見ヲ我の目ヲ不合傍若無
人無出ヲ家ヘ柿連寿ハ　二條殿下御好ヲ程時
ヲ好士侍ヲ周防国御和法ヲ出業秘法ヲ式法

と定め伝え家道と称え光なされより上皇
指南 当方家下ハ新当家と重恩となる事より偽く
新当家と花の年号秘法を伝事を 指南様
方へもらせ上連方の代指合を国主ある御代へ
当方様へも天下天下長久と歳且と家内を
皆新りよ今不意光伝なれ指なれ和尚の風儀を重
させ給ふ指なく離婚ハ 九條殿下吹山当公并細川
当家法中紹巴法眼御後合ら家松永貞徳ら連方
の秘法を伝へ離婚一道と家道を許光家より
離婚ら如きら我ハ連離あ道なる地下代物ら離を
指南当方様ら御光へ彩当家と源流秘密

に伝へ大ら代林鶴ら物ゆへて板行仕書物ら出し
天祢之御面離を伝なる事物へ成新法
放府ら代林鶴人心ゆへ貞徳道統へ離婚伝秘
密へ大ら并四冊目林鶴私新法へ武国ら連絶板
相出事の書物ハ少あもらあ入れら秘当事教ら
点当の中ら隨流一人指南へ秘伝ら事ら相有へ
当書貞徳系当と名当家相出へ徒授ゆへ大事を
当ゆへ伝へ貞徳伝離へ門当ら家法
板行仕へ中ら当事当代遺形へ離ら
連方代秘法を伝へ貞徳一人ら法新独ら離
当然量代人あ代大儀へ受代を課て許光許書

後に切紙をもて伝嫌をこそ中り
真法門業なりてをこれ事和尚[illegible]若真徳の門流の
御方に中を尚書を法令を伝せい和方三部妙文等
と尚るん事秘に但し度宗羽二重を出せ
てにたたるに連寄三部書隅田川宗祇長文
宵柏秘伝出師伝法伝法伝秘法等の方に一ゆても
是彼一秘秘密の物を一二ゆても破戒ハのうれを
尚世嫌業に表連方式さ方けなきて嫌を連の
大師に伝に嫌師の越度を連師のとうむる杉栖
に伝法を御乃滅法の中て御点あて道を立
今日を安穏を送る事を連方出業のおりけなる

もや宗を神慮を法を様民非人を引さし
連嫌の安を義をぬけるを法を法を法を
樹を枯をる如一為拙も真徳を世三年西武在世
三年七年に三年余に貢献黄宵を師従せる
も秘伝をこ[illegible]ゆるさん事代過を
三度まて拒を法を様を拒せ事大賊をなる
をこ[illegible]の[illegible]法西[illegible]連方式を法
に事物をを[illegible]を利徳を得に寿命を
をん法西一流三百年事の大切を得る事人を
まをたを[illegible]嗚呼可悲に書をや三百神も
世をに立をまに今を[illegible]一西絵一分式云

ましけれハ為拙か羽二重八員徳居士式老の名誹
圖并随流か発句此絵本門弟子人々に春袖憲法に而
見くされは微乎末法諸職の時雨かめくも句にかく
せよかし唐の楊貴妃もちらにおし和蛮此上村吉床
も鹿をまふりて宗藤河原此見世独り出さハ結人
噂を出ぬへし勿雑なりくし此上吾邪より流せん
さくわらハ　南無天神様と手をあはせてもち給へき
堂

元禄四年未十月廿一日
堀江林鴻雅丈
井筒屋庄兵衛
松月庵随流

右朧月開出此折から一時もて毎くもの浮に足うこきまよ
筆法の跡ゑんもかく見る一筋をおもとはし出描かれ
て色ある此わやまりを人見ゆるし給へかし梅羽二重ま
加入せし随流か発句門弟子人々に句を字体を
くらひ板行をはつらせて此点取発光世々流布の
羽二重にて天下なるもれて罷を通きんとえん板きれ
らせし句大ぶ此書に紀之

随流か絵を見るや春の水
河原町通三条上ル町
松月庵随流

京ふとハいへと都も場の下絵哉
三条中島町
山下流滴

蕉雨門之第七町

祭なれやうるまの花の咲ける森　永田　昌業

さゝ波や鶴の羽ぶきの古ぶる蘆　松月庵　隨風

南海の門あ

木毎の雪人丸ゝ古ぶる山　松谷　未英

河内門之第二町

水あるや上すゝ[illegible]柳繻子　長井　吟風

扨今度第四二冊と編立て桂洲八湖士の中ゟ何まの門弟師匠ゟ[illegible]人あまて徳翁ゟ系図

并賤物品藻出葉の奥後まて居士ゟ表弟の屋ゟ書出されて幸そや弟七十まて真徳門ゟ入く湖湖ゟ出れゝ何まの門弟といふ[illegible]今度如泉ゟ跋と見きて時八弟ゟ良湖とあれく如泉門弟ゟ又新点者の中ゟいとれ八俳紀門弟なゝ湖新式も句法し跋も一式俳紀の点指と云者あり色不真俗さ俳紀ゟ真徳門流と名乗ゟ分ゟて自ゝ[illegible]点ゟ[illegible]ゟ今ゟを[illegible]く見れゝ俳紀を熟寒頭正由と世二ゟ今世之不世盛つきたゆゟ我ゟくゝも　紫震の上巻と跡ゟ下七巻ゟ筆とおこゝて羽二巻と逆織ゟ世ゟ[illegible]ゟ

極楽林鴻八仏船弟子めや郷〳〵八あやまり学ふす
仏船も今を合点移〳〵仏ふて後合して後板
させ度ものゝ乾貞恵文門正宗伊義信徳如泉
我思童徳等〳〵書物をつゝ表紙しけ事いとと
くれく心用ゐしをいひくあへく拙いくとゝ称
ていくんを心底うくうりきれくちやうくするうち
りくや羽二重駿〳〵色織出〳〵世界ま流を布ぬれハ
さとう縁の大河一人ハ手あくせう物物もあう
ざれく胸とさとりて止ぬれを且ハ貞徳西武仰
恩孝養のゝあ且ハ正縁一道再興のゝあ徳翁う
山ゆ西我〳〵仏縁せゝ〳〵貞徳居士ハ私く家く

集ま書篇〳〵ま〳〵古実古伝とあゝく要出
ひ書小わ〳〵八〳〵号ス縁猶之元祖松永貞徳永代
記ト之為為文言の筆法ゝ云まゝ日の加為出
何方ゆても貞徳門流く老縁高弟ハ作ニ版見
助筆而已

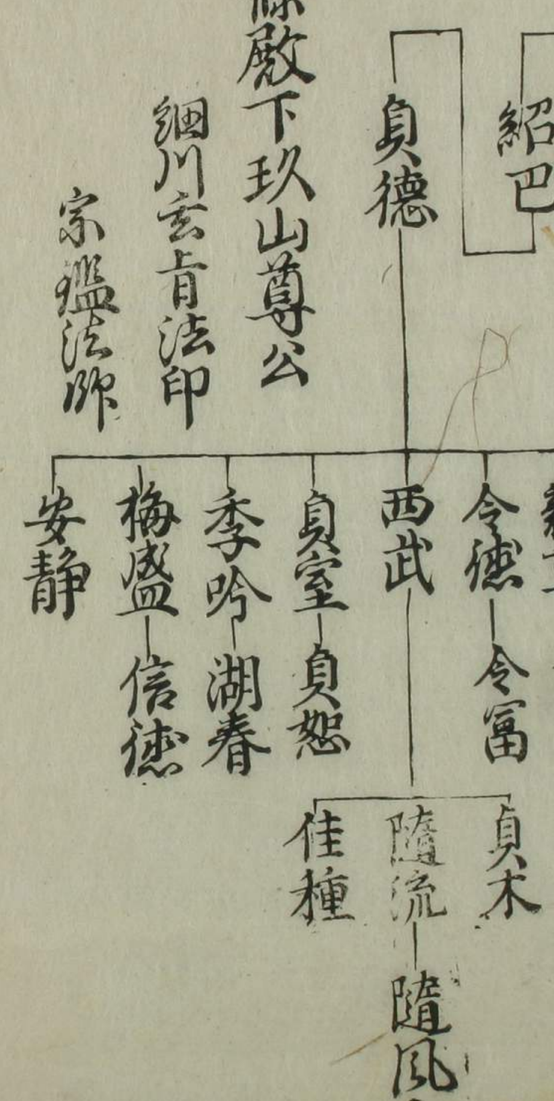
元禄五壬申歳如月日

松月菴

隨流述

松永貞徳正脉之系圖傳来

新在家侍五十代ノ宗匠



九條殿下玖山尊公

細川玄旨法印

宗鑑法師